


□新規 ■継続 □継続【一部新規】

要 望 事 項	西十和田トンネル（仮称）の早期建設について
---------	-----------------------

要 望 先	国	
	県	県土整備部道路課

要 望 内 容	<p>○ 西十和田トンネル（仮称）の早期建設に向けた対応について</p>
現 状 と 課 題 ・ 具 体 的 内 容 ・ 効 果 等	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国道454号は、青森県津軽地域から内陸部を横断し、秋田県小坂町及び十和田湖を經由して、青森県八戸市に至る路線であり、津軽地方と南部地方をつなぐ重要な路線です。 ○ しかし、温川から滝ノ沢間は、豪雪により冬季間閉鎖されているため、通年観光や物流における交通確保の妨げとなっています。 ○ そこで、国道454号上の秋田県小坂町と国道102号線上の平川市をつなぐ西十和田トンネル（仮称）を建設することで、通年通行を目指すものです。  <p>【具体的内容】</p> <p>西十和田トンネル（仮称）の早期建設に向け、秋田県との意見交換の継続及び国への働きかけをお願いいたします。</p> <p>【効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 西十和田トンネル（仮称）を建設することで、津軽と南部の通年通行が可能となり、観光資源及び観光ルートの充実が図られるとともに、物流ルートとしての効果が期待されます。 ○ 国際的な観光地である国立公園「十和田湖」と「八幡平」をつなぐルートとして、広域観光・レクリエーションの振興が見込まれるほか、令和5年に世界自然遺産登録30周年を迎える白神山地や、世界文化遺産に登録された縄文遺跡群を擁する津軽地域と、南部地域及び秋田県北地域

とのアクセスが向上することにより、県内の旅行需要の喚起及び周遊の促進が図られ、観光による交流人口の増加も期待されます。

- 青森県南地域と秋田県北地域が有機的に連結し、両県の産業振興と経済発展・文化交流に寄与することが期待されます。

西十和田トンネル（仮称）を中心とした広域観光の可能性



< 国土地理院地図をもとに加工 >

西十和田トンネル（仮称）を中心に
青森県南地域と秋田県北地域が有機的に連結

<p>現在までの主な経過・参考事項</p>	<p>< 調査関係 > ※青森県主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成7～12年度 航空写真図化、環境調査、地質調査等 ○平成13年度 環境調査、公園利用計画検討 ○平成14年度 環境調査、整備効果予測等 ○平成15年度 地質調査、環境調査、概略設計 ○平成16～18年度 環境調査、地質調査 ○平成19～21年度 環境調査（猛禽類の定点調査・林内踏査） ○平成22年度 調査結果等取りまとめ ○平成23年度～ 営業評価資料作成（交通量等調査、整備効果検討） ○平成30年度～ 青森県・秋田県担当者意見交換会 <p>< 関係機関協議関係 > ※各同盟会構成市町村等主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成元年度 西十和田トンネル建設期成同盟会設立総会開催 ○平成3年度～ 西十和田トンネル建設期成同盟会開催
-----------------------	---

○平成5年度～	青森・秋田両県へ要望
○平成25年度～	市町村議会において西十和田トンネル（仮称）の早期建設を求める意見書を提出（国・青森県・秋田県）

担当部課：黒石市 企画財政部企画課

県の処理方針 （県土整備部 道路課）	
経緯	<p>国道454号（仮称）西十和田トンネル</p> <p>平成7～12年度 航空写真図化、環境調査、地質調査等</p> <p>平成13年度 環境調査、公園利用計画検討</p> <p>平成14年度 環境調査、整備効果予測等</p> <p>平成15年度 地質調査、環境調査、概略設計</p> <p>平成16～18年度 環境調査、地質調査</p> <p>平成19～21年度 環境調査（猛禽類の定点調査・林内踏査）</p> <p>平成22年度 調査結果等取りまとめ</p> <p>平成23年度～ 事業評価資料作成 （交通量等調査、整備効果検討）</p>
処理方針	<p>国道454号（仮称）西十和田トンネルについては、平成7年度から調査に着手しこれまで環境調査や関係機関との協議、事業着手に必要な費用対効果を検討するための交通量調査等の基礎調査を進めてきたところです。</p> <p>本トンネルは、青森・秋田両県にまたがる長大トンネルとなりますが、当該改良区間の大部分が十和田八幡平国立公園に位置していることから、環境省の合意を得ることが必要となると考えております。また、高度な技術と莫大な事業費を要するなど多くの課題があると認識しており、これまで、秋田県との情報交換も実施しております。</p> <p>今後も引き続き、交通需要の変動を把握するための交通量調査等を実施していくとともに、秋田県との情報交換についても継続してまいります。</p>